４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

砂場に水を持ち込んで遊ぶ
色水遊びから興味が広がり、砂に着色したい子が出てくる
砂に絵の具を混ぜてみる
色のついた砂で遊ぶ

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

６月砂場は温かい「あったかい」「気持ちいい」との声。日陰はどうか保育士が問うと手をいれて「冷たーい」温度の差に気付き、砂の感触を楽しんだ。
保育士がバケツに水を用意して持っていくと、「うわー」「早く流して」と興奮気味「水を流すとどうなるかな？」と声がけしながら流すと、「色が黒くなったね」と湿った砂を触り、「白いのも黒いのもあったかいよ」と声が上がる。
後日「砂に水を混ぜたら黒くなったけど、他の色はどうだろう」との保育士からの声掛けに砂と絵の具を混ぜる遊びが始まる。「ねるねるねるねみたい」とただひたすら混ぜる子、混色する子それぞれ楽しんだ。酷暑と工事のため砂遊びは一時中断。
２月に園庭が使えるようになり、保育士が色のついた砂で遊ぶことを提案「アイス作りたい！」「かわいいお団子が出来たよ」と見せ合う。色月泥がついた手を見せ合い盛上る。
一人一人カップに色砂を入れて遊んでいたが、「いらっしゃいませ」「〇〇ください」と友達とのお店屋さんごっこも始まった。







５．振り返り

＜振り返りによって得た保育者の気づき＞

砂と水、絵色の変化や砂の感触など友達と見せ合ったり、一緒にやり取りしたり夢中になって取組んでいた。子どもの様子をじっくり観察していると、砂遊び、泥遊びを通して一人一人の子が、気付きを持ち、好奇心をもって、いろいろと考えて遊んいる印象を受けた。遊びの中で楽しみ、学びながら得た経験が次の遊びにつながっている事を実感した。